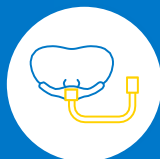


直列Aerogen® Soloとフェイスマスク付きジェットネブライザーでの、HFNCにおける気管支拡張剤の有効性の比較

原著：Reminiac F, Vecellio L, Bodet-Contentin L, et al. Nasal high-flow bronchodilator nebulization: a randomized cross-over study. Ann Intensive Care. 2018;8(1):128.

背景



HFNC治療は、非侵襲的呼吸サポート手段としてその使用が増加しているが、このような環境下で行われる気管支拡張剤の吸入投与の有効性に関する管理された臨床データがない

目的



本研究の目的は、気管支拡張剤の吸入投与の有効性転帰を、HFNCでのインラインAerogen® Solo使用とフェイスマスク付きの標準ジェットネブライザーで比較することである。比較のため、転帰はHFNC治療単独でも評価した

素材と方法

デザイン:無作為のクロスオーバー試験



1週間にわたって連続しない3日間、無作為の順序で投与した



転帰指標



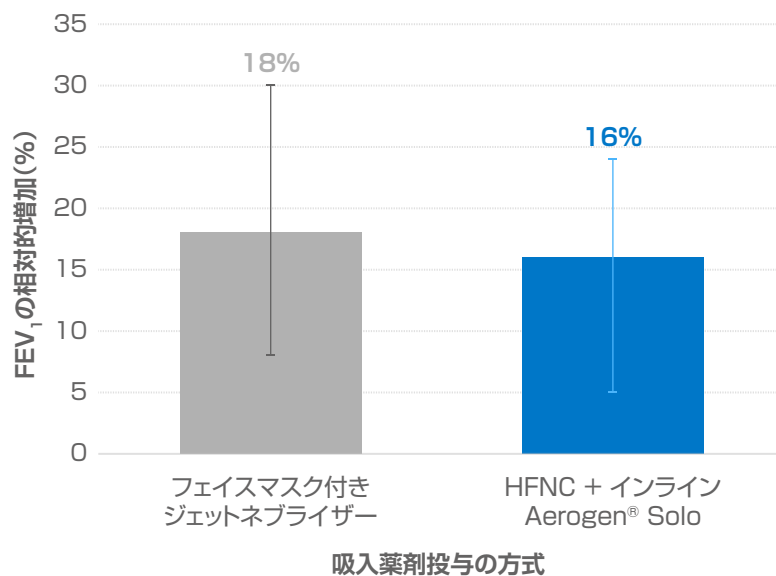
- プライマリーエンドポイントは、Aerogen® Soloとフェイスマスク付きジェットネブライザーを比較したFEV₁の相対的改善度であった
- 気管支拡張剤の有効性を、各HFNCセッションの前後に実施するスパイロメトリーとプレチスモグラフィーで評価した

*FEV₁/FVC比<70%、および正気管支拡張剤可逆性試験 (FEV₁ ≥12%、≥200 mL増、吸入アルブテロール投与後)。FEV₁ (1秒量)、FVC (努力性肺活量)、HFNC (高流量鼻カニューレ)。

直列Aerogen® Soloとフェイスマスク付きジェットネブライザーでの、HFNCにおける気管支拡張剤の有効性の比較

原著：Reminiac F, Vecellio L, Bodet-Contentin L, et al. Nasal high-flow bronchodilator nebulization: a randomized cross-over study. Ann Intensive Care. 2018;8(1):128.

吸入薬剤投与 気管支拡張剤吸入後のFEV₁の相対的増加



FEV₁の変化とAerogen® Soloとジェットネブライザーの残留量には良好な相関関係が見られた



いずれの投与方法も、許容範囲が広く、患者の安心の度合いも同様であった



著者らによれば、この結果から、Aerogen® Soloでは、「面倒な装置の交換なしで[標準フェイスマスクジェットネブライザー]と同程度の有効性と許容性でHFNCにおいても吸入薬剤投与ができる」とのこと



気管支拡張剤の有効性は、Aerogen® SoloではHFNCを中断することなく実施でき、HFNCでのインラインAerogen® Solo使用とフェイスマスク付きジェットネブライザーで同程度であった

販売名： Aerogen Solo ネブライザシステム
(Aerogen Solo Nebulizer System)
認証番号： 303AGBZ100002000

お問い合わせ
外国特例認証取得者・製造業者： Aerogen Ltd.

Tel. +353 91 540 400
メール info@aerogen.com
ホームページ www.aerogen.com

選任製造販売業者：マイクレン・ヘルスケア株式会社

詳しい内容に興味がある方はQRコードをスキャンするか、クリックしてください。

